



秋の懇親会

10 月 15 日（日）14 時に成美教育会館にて恒例の「秋の懇親会」が実施されました。今年度は、前段として早稲田大学校友のアマチュア講師中村紳幸氏の講談で幕を開けました。演目は「忠臣蔵 二度目の清書」でした。話の内容が面白く、あっという間の 20 分間でした。その後、山口会長の乾杯の発声で懇親会が行われ、参加者は情報交換等で盛り上がりました。楽しい時間もあっという間に終わり、約 2 時間の懇親会も大矢事務局長のリードのもと早稲田校歌斉唱、高橋前会長の挨拶で幕を閉じました。

注 1：講談とは

講談とは、演者が高座におかれた枱台と呼ばれる小さな机の前に座り、張り扇でそれを叩いて調子をとつつ、軍記物や政談など主に歴史にちなんだ読み物を観衆に対して読み上げる日本の伝統芸能のひとつ。

注 2：講談と落語の違い

「落語」が会話によって成り立つ芸であるのに対し、「講談」は話を読む芸。読むといっても単なる朗読とは違い、独特の調子と小道具を使って展開する。

<参考資料>

『赤穂義士伝～二度目の清書』 あらすじ

(あこうぎしでん～にどめのきよがき)

【解説】

大石内蔵助は仇討の大望を隠すため、毎日廓に通い女人や酒色に溺れるふりをする。この度茶屋町の太夫を身請けしたが、太夫をこの家に住ませると言う。内蔵助の妻であるお石は怒り、離縁を申し出る。家を出る決心をし、母親、二人の幼い子供と一緒に実家である播磨国豊岡へと旅立った。すると内蔵助は何やら文を認める。これをお石の父親である豊岡の石東源五兵衛に届けて欲しいと寺坂吉右衛門に託す。さらに「心中よしなにご賢察を」という口上を添えるよう申し付ける。これを見て源五兵衛は内蔵助の意図を悟る…。

【あらすじ】

主君浅野内匠頭(たくみのかみ)の無念を晴らすため仇である吉良上野介(きらくさげのすけ)を討つとの大願を抱いた大石内蔵助(くらのすけ)。企てを成功させるためには吉良家にこの意図を知られてはならない。敵を欺くにはまず味方からと内蔵助は周囲の者たちに愚人を装う。日ごと廓に通い女人と酒色に溺れる。

今日も酩酊し我が家に戻り、高いびきで寝ている。酔いが醒めぬまま朝を迎え、妻のお石に起こされた。お石は毎夜酒浸りになっていること、また茶屋町の太夫を身請けしたことを諫め、年老いた母親や幼い子供たちのために



講師 中村紳幸氏

も身持ちを改めて欲しいと請う。しかし内蔵助は身請けした太夫をこの家に住ませ、太夫を姉に、お石を妹にすれはうまくいくだろうなどと、とぼけた事を言う。この言葉に武士の娘であるお石は怒り、離縁を申し出る。内蔵助はスラスラと三行半を書く。お石はワッと泣き伏せる。内蔵助の母親もこのやり取りを聞いており、今度は母親が離縁したいと申し出た。お石は母親と一緒に実家である播磨国豊岡の石束の家に参りましょうと言う。母親もこれに応ずる。幼い子供、吉千代と大三郎も母様、婆様に付いて行きたいと言う。妻、母親、二人の幼い子供は駕籠で豊岡へと旅立った。



内蔵助は何やら文をしたためる。これをお石の父親である豊岡の石束源五兵衛の元へ、妻らの乗った駕籠より先に届けて欲しいと足軽の寺坂吉右衛門に託し、さらに「心中よしなにご賢察を」という口上を添えるよう申し付ける。

文は源五兵衛の元に届いた。妻と母親とを離縁したことが書かれ、さらに寺坂から「心中よしなにご賢察を」という口上を聞く。同じ武士である源五兵衛はこれで全てを悟った。「お石と母親はしっかりと預かるので安堵するように」と内蔵助に伝えてくれと源五兵衛は言う。

元禄十四年十二月十四日、大石内蔵助をはじめとする四十七士は吉良上野介の屋敷に討ち入り、吉良の首を討ち取って本懐を遂げた。亡き主君への報告のため泉岳寺へと向かう途中、内蔵助は寺坂に浪士の身内たちに仇討の次第を伝えるよう頼む。

内蔵助から文を預かり、寺坂はまず豊岡の石束の家に向かう。文はお石・母親との離縁を伝えて以来であるのでこれを二度目の清書（きよがき）という。ついに吉良の首を討ち取り仇討本懐を遂げたこと



全員で校歌斉唱

を知る者たち。お石と母親は、内蔵助の本心を知らなかったことを恥じ、また悲しみ泣く。寺坂は口上を述べ、討ち入りの模様を詳細に語る。妻や母親までを欺き、宿願が叶ったことを一同のものは知るのであった。

有賀 千歳 記

2024年 東久留米稲門会新年会のご案内

来春1月20日（土）に東久留米稲門会恒例の新年会を開催いたします。奮ってご参加ください。今回も新春恒例となった『ビンゴゲーム大会』を行う予定です。一～三等賞は、商品券、さらに会員の皆様から家で眠っていた「お宝」商品を持ち寄っていただく「副賞」も持ち帰ることができます。たくさんの方の会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳細は同封のチラシをご覧ください。

日時：2024年1月20日（土）午後2時00分より

場所：成美教育文化会館3階大研修室

会費：お1人様 3,500円（同伴者1人1,000円）

※未入会の市内在住校友の方はご招待（¥0）です。

<会員の皆様へ賞品提供のお願い>

今年も「賞品」持ち寄りを実施したいと思います。ご自宅に眠っていて不要と思われる、「BINGO賞品」に相応しいものがありましたら、是非ご提供ください。当日ご持参いただければ幸いです。



会の告知板

【部会予定】

11月	17～	19日	書道部 第12回作品展	10:00～16:00	スペース105
11月	30日	(木)	映画鑑賞会「心の旅路」	14:00	成美教育文化会館
12月	3日	(日)	第4回役員会・忘年会	16:00	生涯学習センター
1月	13日	(土)	ニューイヤーコンサート	15:00	ベーターヴェンホール
1月	20日	(土)	新年会	14:00	成美教育文化会館
2月	4日	(日)	第5回役員会	16:00	生涯学習センター
2月	22日	(木)	映画鑑賞会	14:00	成美教育文化会館
4月	7日	(日)	臨時役員会	16:00	生涯学習センター
4月	21日	(日)	第30回定時総会	14:00	成美教育文化会館

<各部会定例活動一覧>

部会	11月				12月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性カール	2	木	10:00	中央町地区センター	7	木	ランチ会	同心居
書道	12	日	13:00	八幡町地区センター	10	日	12:00～15:00	スペース105
俳句	20	月	10:00	生涯学習センター	19	火	10:00	生涯学習センター
囲碁	26	日	13:00	成美教育文化会館	24	日	13:00	成美教育文化会館
太極拳	11	土	10:00～12:00	成美教育文化会館	2	土	10:00～12:00	成美教育文化会館
	18	土	10:00～12:00	成美教育文化会館	9	土	10:00～12:00	成美教育文化会館
	25	土	10:00～12:00	成美教育文化会館	16	土	10:00～12:00	成美教育文化会館
バドミントン	毎週金		10:50～	東久留米スポーツセンター	毎週金		10:50～	東久留米スポーツセンター
ソフトボール	13	月	11:00～13:00	南町運動広場	4	月	11:00～13:00	南町運動広場
	27	月	11:00～13:00	南町運動広場	11	月	11:00～13:00	南町運動広場
ボッチャ	2	木	13:40～15:50	東久留米スポーツセンター	7	木	13:40～15:50	東久留米スポーツセンター
	4	土	12:30～	東久留米スポーツセンター	9	土	13:00～15:30	東久留米スポーツセンター
	20	月	11:20～13:30	東久留米スポーツセンター	18	月	11:20～13:30	東久留米スポーツセンター
	30	木	13:40～15:50	東久留米スポーツセンター	25	月	13:40～15:50	東久留米スポーツセンター

【大学・校友会関係】

11月	18日	(土)	東村山稲門会総会	サンパルネコンベンションホール
12月	2日	(土)	商議員フォーラム	早稲田大学
1月	13日	(土)	練馬稲門会ニューイヤーコンサート	ベーターヴェンホール
3月	16日	(土)	春季幹事長・事務局長会	早稲田大学
3月	16日	(土)	春季代議員会	早稲田大学

会の報告

◎第3回役員会報告

2023年度第3回役員会が10月1日(日)16:00～生涯学習センターにて開催された。

<議事録概要>

山口会長から開会の挨拶の後、以下の事項について報告や意見交換が行われた。

1. 秋の懇親会

- (1) 「成美教育文化会館」 3階大研修室 (13:00~16:30 予約)
- (2) 実施日程 10月15日(日) 14:00~16:00
- (3) 案内対象先 会員並びに一般校友・・・20代~40代の校友(約280名)を招待する。
- (4) 余興 早大校友の講談師 中村紳幸氏 演目「忠臣蔵 二度目の清書」

2. 会費納入状況等

会計担当の清水氏より、資料に基づき9月末現在の収支実績の説明があった。なお、2023年度会費納入者数は130名、未納者6名とのことであった。

3. 広報関係

(1) 東稲ニューズ記事の募集、印刷日時等

今回編集担当の片平氏より、資料に基づき編集案概要の説明があった。なお、原稿締切、印刷等は以下の日程とした。

原稿締切: 10月25日(水)

印刷日: 11月7日(火) 16時~ 生涯学習センター 印刷室

封入等の作業: 17時~ 生涯学習センター 学習室



4. 組織強化補助金20万円の申請について

(1) 稲門祭記念品購入の件

167,000円(目標額14万円) 6/4 現在

(2) 稲門祭へふるさと賞の寄付

2023年度 柳久保うどん 340円 60箱とした。 *2024年度は「柳久保ラーメン」とする。

(3) 体育関係部への寄付5万円

2023年度は「競走部」とした。

5. 会長・部会長・役員忘年会 <12月の役員会当日>

(1) 日時: 12月3日(日) 18:00~

(2) 会費・場所: 未定

6. 新年会

(1) 日時: 2024年1月20日(土) 14:00~ <13:00~16:30 予約>

(2) 場所: 成美教育会館3階 大研修室

(3) その他: 担当 吉田副会長 梶井、長束、前川

余興 ビンゴの景品として図書券用意(優勝5000円、準優勝4000円、3位3000円)

7. 今後の行事予定

(1) 今後の役員会

12/3(日)・2024年2/4(日)・4/7(日)

(2) 次年度総会は、2024年4月21日(日) 成美教育会館1階ギャラリー(予約済)

講演会 「発声と免疫力」 (社)日本発声医学協会 代表理事 野口千代子

8. 映画鑑賞会

9月28日(木) 14時 「ウエストサイド物語」 成美教育会館

2023年11月30日(木) 「心の旅路」

2024年2月22日(木)・6月27日(木)・9月26日(木)

9. 30周年記念事業の件

・実施日程 2024年6月29日(土)

・会場 生涯学習センター まろにえホール <予約済>

*懇親会 成美教育会館 グリーンホール <予約済>

- ・記念コンサートの件

早稲田大学交響楽団（40～50名）と早稲田大学合唱団（40名）が出演予定
狛江稲門会のコンサート内容と同様に行う

- ・コンサートの題名

『早稲田大学 東久留米稲門会創立 30 周年記念「杜の西北」コンサート』

※ 次回役員会について

2023 年 12 月 3 日（日）16 時より、生涯学習センターの予定

大矢 真弘 記

◎秋季代議員会報告

去る 9 月 30 日土曜日に早稲田大学で秋季代議員が行われた。協議事項として①2022 年度決算承認の件②推薦校友候補者承認に件があり、全て承認された。報告事項として①校友会幹事交代について②賛助代議員名称贈呈について③代議員・支部長等異動について④2023 年稲門祭について⑤演奏旅行 2023 についてがあった。ここでは、早稲田大学総長/早稲田大学校友会会長田中愛治氏の挨拶を中心に早稲田大学のこれからの指針等について述べる。

1 国際卓越大学申請に落選したことについて

- ・申請の時期及び準備が遅れた。
- ・カーボンニュートラルを大学の研究の中心に据えていることを強調したが、先走りに見えたようだ。早稲田大学の強み、覚悟が見えなかったようだ。
- ・申請に対し、足りないと思われることを修正し、来期も申請する予定である。

2 創立 150 周年記念事業に向けて

- ・「貢献の早稲田」「教育の早稲田」「研究の早稲田」の連携を強化する。
- ・人類社会に貢献し、活躍しようとするならば、早稲田で学ぶことが、2040 年までには日本で最も、2050 年にはアジアで最も、効果的な教育を受けられる大学だと、世界中の人が思う大学になる。→そのような礎を 2032 年迄に構築する。
- ・学生が輝く早稲田の未来へ！早稲田大学応援基金の充実
研究の充実にはお金がかかる。募金によって研究する学生たちを支援したい。
※論文数：東大は早稲田大の 10 倍、国からの補助金も 10 倍。

3 その他

- ・早稲田スポーツ強化基金について（野球、駅伝、ラグビー）
- ・早稲田キャンパス 9 号館建設募金
- ・学生が輝く 早稲田の未来へ 早稲田大学応援基金
2023 年度の主な支援内容 ①文理横断・文理連携への支援 ②全員留学を目指す支援 ③学びを止めない奨学支援
- ・医学部設置よりか日本の医学に貢献することが大事
- ・付属高校についても OBOG がバックアップ。部活動も継続的に支援する。



有賀 千歳 記

◎大学校友会秋季幹事長事務局長会

9 月 30 日（土）14 時から早稲田大学大隈小講堂において大学校友会の幹事長事務局長会が開催された。萬代晃校友会代表幹事から、コロナ禍を経て、オンラインによる会合についても補助金を出す制度を作った。今後も強靱な校友会を目指す。アルコールの提供は禁止としたが対面での稲門祭を実施するので、皆様のご協力をいただきたいとの挨拶の後、2023 稲門祭実行委員長からも挨拶があった。引き続き、事業・組織・財務・広報・V150 委員会から以下のような活動報告並びに募金関係の報告とお願い等があった。

事業委員会：奨学金授与式・ゴルフ大会・稲門祭・卒業式前夜祭・校友会支援講座等

組織委員会：コロナ禍で実施できなかった年次稲門会・海外稲門会との交流等
財務委員会：2022年度決算・Wカード年会費有料化対応・Wスポーツ強化募金等
広報委員会：学報の作成状況・過去の学報のデータ化等
Vision150：2023年度東北演奏旅行・Wヘルスフェイター・10年会費終了後の活動等

事務局長 大矢 真弘 記

◎稲門祭報告

稲門祭は、早稲田キャンパスにおいて校友とその家族に加えて、近隣に住む方や早稲田ファンなど、誰でも参加できるオープンなイベントです。

本年は、10月22日（日）に開催されました。当日は、秋の晴天に恵まれ、大変な人出となりましたが、混乱を見ることはありませんでした。本年のテーマは、「心のふるさと早稲田」です。キャンパスの建物は、すっかり新しくなっていますが、多くの校友がキャンパスで、それぞれの「心のふるさと」を感じたことと思います。私にとっては、たたずまいの変わらない大隈侯銅像と大隈講堂（その美しさに魅せられます）が、在学中のあれこれを思い出させました。

本年の稲門祭実行委員会には、東久留米稲門会から片平さんと平山（努）が、実行委員として参加しました。当日の仕事は、エコステーションというゴミ箱での廃棄分別の指導で、片平さんは午前、平山は午後それぞれ2時間、学生ボランティアとともにゴミ箱の管理をしました。本年は、キャンパス内の飲食（但し、酒類は不可）が許されたので、大量のゴミが出て、その処理に追われました。

恒例の福引きの件ですが、結果は、平山（正徑）さんと片平さんが当たりました。この内、片平さんは、最高の「稲門賞」（旅行券10万円分）に輝きました。（最後に私事ですが、同日午前、早稲田アリーナ（戸山キャンパス）で開催の「第58回ホームカミングデー」に出席しました。卒業45年後に母校で高らかに歌う「都の西北」は格別でした。）

平山 努 記



部会だより 【活動報告】

<ゴルフ部会>

秋の稲門会コンペ

暑かった夏もどうにか終わりようやくゴルフシーズンとなった10月12日に稲門会のホームコース「熊谷ゴルフクラブ」にて秋のコンペを開催しました。三田会より山田さん、中川さんの参加をいただき15人、4組でのコンペとなりました。このコースは距離も長く、グリーンも傾斜があってとシニアには難しいコースでした。当日は某生命保険会社の接待コンペが開催されキャディもいなくセルフでの



プレイとなりました。結果はメンバーと運に恵まれた金子がベスト（91）での優勝、2位は途中まで首位を走っていた東海さんが2位、いつも安定して上位の池田さんが3位でした。今回は表彰をしなかったことでちょっと寂しかったかなと思います、東久留米に戻り有志での反省会をしました。

金子 孝司 記

<俳句部会>



第277回 9月17日(日)

兼題：栗 水澄む 他当季雑詠二句

<高点句>

少年の笛に始まる村祭	片平るみ
暮れる日や生き急げよと法師蟬	杉本達夫
スーパーで秋の七草母教え	馬場清彦
ガラス窓よく拭きこみて秋になる	横田慧子
人はみな旅せん心鳥渡る	大久保泰司

<自選一句>

水澄むや富士山麓の水脈の里	比護喜一郎
水澄むや池塘に揺らぐ茎も葉も	川島知子
書きかけの友への手紙秋思かな	三浦洋子
縄文やざっくり判れし栗の毬	橘優治



第278回 10月22日(日)

兼題：菊 秋の海 他当季雑詠二句

<高点句>

砂山を崩して帰る秋の海	横田慧子
もう風の囁きほどの虫の声	片平るみ
流木にふれて人去る秋の海	大久保泰司

<自選一句>

旅の宿素焼きの壺に秋の草	三浦洋子
沖にヨット人影少な秋の海	馬場清彦
あの時も裸足と裸足秋の海	川島知子
菊の鉢ふたつ抱えて荒川線	比護喜一郎
彼岸への旅立ち菊花うずたかく	杉本達夫
暁暗の星はひとつとちろろ鳴く	橘優治

片平るみ 記

<ソフトボール部会>

子供の頃の遊びは、ビー玉、メンコ、ベーゴマでしたが、費用がかかるし、強い子と弱い子の差が大きいため、次第にソフトテニスボールを利用した三角のベースボールが中心となっていきました。但し、近くに公園はなく、学校の使用も制限されているため付近の農家の庭や近くの芝生で地主の目を盗んで試合をしましたが、自宅は、庭に添って川が流れていたため使用できませんでした。その中でも芝生が最適でしたが、芝が痛むことで芝を刈取る直前にベースボールで使用した時は、地主にこっぴどく叱られました。諸先輩と同様に悪ガキの面もあったのかと思います。また、今考えてみると地主に悪いことをしたと反省しています。

前置きが長くなりましたがソフトボールとの出会いは、小学5年生の時のクラス対抗でした。5インニングの試合でセカンド、5番か6番で先発して一打席目は、素直に打って二遊間を破りセンター前のヒット、二打席目は、引っ張りすぎてショートゴロだったと思います。勝敗は、確か敗戦したと思います。その後は、ソフトボールとの縁はなく中学時代は、軟式テニス、高校時代はバレーボールとクラブには入会しましたが、中途半端に終わりました。

その後ソフトボールに接することはありませんでしたが、大学生の時に軟式野球に多少経験があるクラスメートから早慶戦を提案され、早慶とも野球の経験はほとんどありませんでしたが、東久留米市滝山球場で練習して河口湖の運動場で試合ができたことは懐かしい思い出です。卒業後勤務先の全店で球技大会がありましたが、男子は軟式野球、女子はバレーボールで男子は準々決勝まで、女子は準優勝をしてみたい指導はしませんでしたので断りましたが、銀メダルが机の中にあります。その後金融不況となり球技大会は中止、社内でのゴルフも禁止となりましたのでゴルフを断念、ゴルフ用具も廃棄しました。

私も渡辺部会長の熱心な勧誘によりソフトボールに入会しましたが、渡辺部会長の熱意のある親切な



指導及び部会運営管理の負担を考えるとなかなか止められないと思います。

ソフトボールは、思った以上に難しく「守れない」「打てない」「走れない」等身体が動きません。それでも入会后、50肩（100歳でも50肩）が治りました。これからも怪我がなく皆さんの足を引っ張らないように努めて行くつもりです。

高橋 哲男 記

<ウォーキング & 山歩き部会活動報告 向島百花園（第92回9月19日）>

立秋（今年は8月8日）を過ぎると暑中が残暑になり、9月にはこの言葉も消えてゆくのが常であるが、今年の暑さは9月一杯が残暑というより猛烈な暑中で、秋の訪れを見込んでの企画が真夏の行事となってしまう。総勢14人（男8、女6）で、日暮里から北千住に出て東武刈苅ラインに乗り東向島迄1時間半。そこから炎天下に徒歩8分で向島百花園に到着。

百花園は、江戸の町人文化が花開いた文化・文政期（1804～1830年）に造られた「民営の花園」で、見所は早春の梅と秋の萩である。「百花園」の名称は、一説では、「梅は百花に魁けて咲く」という意味でつけられたものといい、入り口には芭蕉の立派な石の句碑「春もやや景色ととのう月と梅」が鎮座していた。設立当時の一流文化人達の手で造られた、庶民的で、文人趣味豊かな庭として、小石川後楽園や六義園などの大名庭園とは異なる趣が愛されて来て、民営としての百花園の歴史は昭和13年に東京市に寄付される迄続いた。その後昭和20年3月の東京大空襲により全焼し、それまで遺っていた往時の建物も焼失、イチョウとタブを除き、植物も死滅し、百花園としての継続が難しくなってしまったが、地元の努力もあり、幾度か変転を経ながらも、園内の景観は今なお旧時の趣きを保っている。文人庭の遺構としても貴重なものであり、その景観、遺跡ともに重要であるとして昭和53年に、国の史跡および名勝に指定され今日に至っている。

我々が訪れたのは、一方の見所、「萩まつり」開催中であつたが、満開には少し早かつたようで、目玉の萩のトンネルも、花がこぼれ散る程には至ってなかつたのが残念であつた。（花の盛りには少し早かつたが、まつりの為に入場無料となつた余禄に預かつた。）園内には、庭造りに力を合わせた文人墨客たちの足跡も沢山あり、百花園にふさわしい多くの草花木々の中に、芭蕉の句碑を含め、合計29の句碑、石柱が随所に立っている。各自思い思いに園内を散策し、秋というには強すぎる日差しを避けた木陰で、三々五々昼食を楽しんだ。



万葉集で最も多く詠われている花は、萩141首であり、2位梅118首を引き離している。小さな花が木一杯に咲く様子が愛されていたのであろう。秋の七草は、万葉集に収められている山上憶良が詠んだ下記の2首の歌にちなんでおり、その中で七草の冒頭に萩の花が詠われている。

1. 秋の野に 咲たる花を 指折り かき数ふれば
七種（ななくさ）の花
2. 萩の花 尾花葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志
（をみなえし）また藤袴 朝顔の花*

*当時は未だ現在の朝顔は日本になかつたので、「桔梗」と言われている。

「園内には、山上憶良の秋の七草の地植えが楽しめます。」とパンフレットに書かれていたが、その場所では七草は半分程の成長で、憶良の歌碑だけが突出していた。

帰路途中、池袋にて恒例の打ち上げを全員で楽しんだ。

【若山牧水（母校OB）の酒の秀歌】

それほどにうまきかとひとの問ひたらば 何と答へむこの酒の味
人の世にたのしみ多し然れども 酒なしにしてなにのたのしみ

部会長 東海 俊孝 記

<ウォーキング & 山歩き部会活動報告 子の権現・竹寺（第93回 10月24日）>

昨年12月の龍崖山、今年5月の関八州見晴台と雨に祟られ中止を続けた山歩きにとって、2年を超える空白を経た久々のチャンスが到来。漸く秋が来たという実感に包まれた好天の下、総勢12人（男11、女1）で西武秩父線西吾野駅から出発した。総歩行距離9km、歩行時間3時間、標高差400mを目安とする今回の山歩きは、登り下り共きつい処が多く、少なからぬ方々が参加を躊躇された一方、古希以上で且つ大半が喜寿以上の元気な12名が集い、県道299号線沿いを流れる高麗川の小床橋を渡って登り始めた。

子の権現（標高640m、標高差400m）までの4kmの杉林の山道は、かなりきつい上り坂が所々に続いてウンザリしたが、木漏れ日を浴びてゆっくりと、十分な休憩を織り交ぜて歩き、何とかガイドブックが表示する時間を少し超える程度、2時間をかけずに制覇。

子の権現は、高麗川と名栗川の分水尾根上に祀られる山寺で、正式名称は大鱗山天龍寺である。延喜11年（911年）の創建以来千年以上の歴史を誇る天台宗の古刹だが、権現（ごんげん）即ち日本の地に現れた仏の化身が祀られており、入口には鳥居があり、神仏習合の寺として、今日では足腰守護の神仏として信仰を集めている。参道では、二本杉が聳え、仁王像が迎えてくれ、本堂傍には大草鞋が奉納されていた。本堂裏の急階段を上った鐘楼では、霞む彼方に微かにスカイツリーを望みながら、昼食を楽しんだ。

子の権現からダラダラと3km、アップダウンが続く尾根道の林道を歩いて標高差150mを下り、竹寺に辿り着いた。天安元年（857年）、慈覚大師が東国巡礼の際この地で大護摩の秘法を修したのが開山とされ、正式名称は医王山薬寿院八王寺、本尊は牛頭天王*（ごずてんのう、薬師如来の化身：本地仏という）で、神仏習合の寺として知られている。

*日本における神仏習合の神。釈迦の生誕地に因む祇園精舎の守護神とされた。

本殿にあたる牛頭天王社は、幾つかの牛頭天王像に取り囲まれた朱塗りの壮麗な社で、登り口の鳥居に「茅の輪」が設けられていた。スサノオノミコトの日本神話に起源があるといわれる無病息災の祈願、茅で編んだ直径数メートルの輪をくぐり、心身を清めて厄災を払うことをさせて戴いた。

竹寺からは道のり1.6kmで標高差250mを下る急坂の難所を越えて、最終目的地の小殿バス停に至るが、ここ迄で脚に違和感を抱いた3名が、車で送って戴くという寺の好意に預かることができた。最初の登りで2名が途中棄権していたので、全行程を完遂して歩いたのは女性を含む7名という結果となった。

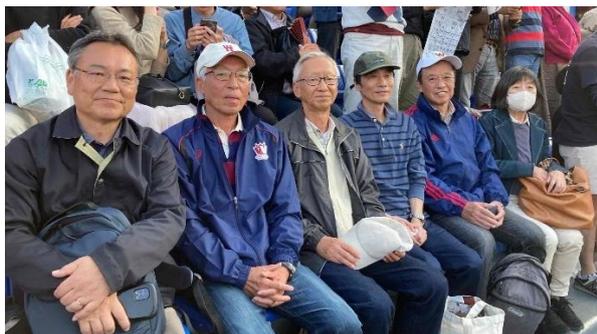
今回のコースは、ガイドブックでは、初心者向けを多少超える難易度であったが、今後のコース選択では、初心者向け程度に落とすという課題が残った。



打ち上げは、飯能駅の近くで台湾料理に舌鼓を打ったが、帰路の西武線では人身事故で運転中止、飯能に足止めというオマケがあった。

部会長 東海 俊孝 記

<スポーツ観戦部会> (野球早慶戦)



10月28日(土)優勝が懸かった早慶第一戦を観戦しました。参加者は7名。久しぶり観戦の河村さん、早慶戦負けなしを豪語する高橋さん、チケット入手の労をとって下さった黒坂さん、卒業後初めて観戦の松崎さん、久留米ではありませんが私の友人(大矢さんの名門福島安積高校先輩)白石君、常連の小野さんと小生。結果はご存じのとおりで9回逆転サヨナラ勝ちという劇的なものでした。松崎さんは球場で自社製品ビールを痛飲し売り上げ増

に多大なる貢献されておりました。

池袋で盛大な祝勝会。野球以外の話題にも花が咲き楽しいひと時を過ごしました。2戦、3戦を落として優勝は逃してしまいましたが、やはりスポーツは現場観戦が一番を実感致しました。(実は第3戦は、有賀夫妻、黒坂さん、私の4人で観戦。この秋の私の観戦試合全勝が途切れてしまいました。残念、無念。来春の奮起を期待します。) 山口 謙二 記

部会だより 【今後の予定】

<カラオケ部会> 「冬のカラオケを楽しむ会のご案内」

壁のカレンダーも残りわずかとなり、今年も慌ただしい季節の到来です、皆様方には如何お過ごしでしょうか。

8月に復活しました「カラオケを楽しむ会」の冬バージョンを下記の通り開催いたします。ご参加の方は、12月8日(金)までに、次回以降の連絡を考慮しまして、出来ましたらメールでご返事を頂けると幸いです。恒例によりまして、お一人様3曲ずつ、ご参加の連絡の際に、「曲名・歌手名」をお願いいたします。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

記

日 時 : 令和5年12月19日(火) 18時30分

場 所 : オンチッチ(市内東本町1-9・TEL 042-473-7333)

会 費 : 5,000円

連絡先 : 後藤 秀作 TEL 070-2621-6822

メールアドレス shu.goto1949@gmail.com

後藤 秀作 記



<第17回ニューイヤーコンサート>

感動のコンサートから10カ月、来年の練馬稲門会主催ニューイヤーコンサートの案内がまいりました。練馬文化センターの改修工事中のため再び武蔵野音楽大学ベートベンホールでの開催となります。

客席数が少ない為、今年同様早目にチケットが完売することが予想されます。

鑑賞希望される方でまだ申込みしてない方は早目に申込み下さい。



(練馬稲門会設立 45 周年記念 FINAL) 第 17 回ニューイヤーコンサート

日 時： 2024 年 1 月 13 日 (土) 14 時開場 15 時開演
演 奏： 早稲田大学交響楽団
指 揮： 曾我大介 ゲスト ソプラノ高橋維 オルガニスト石丸由佳
チケット代： 全席 3500 円 (税込)

チケット申込先 小野 泰右
t_ono_1120@yahoo.co.jp 又は 090-7251-0648 小野 泰右 記

<映画鑑賞会第 70 回> 11 月 30 日 (木) 14 時～ 成美教育文化会館

『心の旅路』 Random harvest

監督… マーヴィン・ルロイ 原作…ジェームス・ヒルトン

出演… ロナルドコールマン [ジョン・スミス] グリア・ガースン [ポーラ・リッジウエイ]

第一次世界大戦末、戦場での砲撃ショックで記憶を失って入院の英陸軍スミス大尉に美貌の舞台女優、ポーラが献身的な愛を捧げ家庭を築き一子を授かる。しかし禍福は糾える縄の如し、職探しで訪れたリヴァプールで自動車事故に遭い戦後の記憶を取り戻すがポーラとの三年間の愛の生活を再び記憶を喪失する。運命は一転拓かれスミスはレイナー商会の社主となって実業界・政界に雄飛する。不運を乗り越え愛を信じポーラは女秘書として仕え、スミスは「愛の家の鍵」により記憶を取り戻し「田舎の愛の家」に辿り着く感動的なハッピーエンドのラストシーン。

地位や名誉・財産よりも大切なもの、それは真実の愛。愉しめる映画の要素が凝縮されていて本来的な映画の面白さが味わえるロマンチックで素敵なラブストーリーである。

映画鑑賞会 記



<ウオーキング : 第 93 回>

11 月 14 日 (火) 菊の展覧会巡り : 明治神宮・新宿御苑 東久留米駅集合 9:30

*新宿御苑では、秋のバラ鑑賞も出来る

12 月 12 日 (火) or 5 日 (火) (紅葉の状況等により決定)

候補 1 : 奥多摩・鳩ノ巣溪谷 (溪谷美を鑑賞しながらハイキング、紅葉も)

候補 2 : 六義園 (紅葉鑑賞)

★実施詳細は e メールでお知らせします。参加実績のない方は e メールアドレスの登録がありませんので、下記宛にアドレスをご連絡下さい。(FAX or 携帯電話 SMS でも対応します)

宛先 : toshi-tokai@kvj.biglobe.ne.jp 携帯 080-1205-9494 Fax:042-473-8566

東海 俊孝 記



東稲広報室

<「雑学大学」のオーナーが決まりました>

東稲ニュース 7 月号 (第 130 号) で國米さんから雑学大学のオーナーを募集しましたが、今般決定しましたのでご連絡します。ご協力ありがとうございました。担当者は早稲田大学高等学院の元教諭です。

高橋 哲男 記

<清瀬稲門会主催「オペラ鑑賞会」>

12 月 3 日 (日) 場所「アミュー・ホール」(清瀬駅北口徒歩 2 分)

演目「バレエ チャイコフスキー 白鳥の湖」

(ウイーン国立劇場舞踊団 1966年)。開場 13 時、開演 13 時 30 分。
入場無料ですが、資料のカンパ代 200 円をご用意下さい。

山口 謙二 記

<第3回ふれあいコンサートのご案内>

小生が主宰するアマチュア声楽家のグループ「マッシモの会」が、「第3回ふれあいコンサート」を以下の要領で開催いたします。

- ・ 公演名： 第3回ふれあいコンサート 日本之歌・伊/独/仏の歌
- ・ 日時： 11月12日(日) 開場 13時 開演 13時半
- ・ 場所： 東久留米市「南部地域センター」(2階講習室 100席)
- ・ アクセス： 西武池袋線「ひばりが丘」駅・南口バス5分・徒歩3分
- ・ 演奏者： 男女8名・ゲスト橋本夏季さん(ソプラノ・東京藝大(院)卒)
- ・ 演奏曲： 日本歌曲、伊・独・仏歌曲、オペラアリア等24曲(予定)
- ・ 参加費： 800円(余剰金は視覚障害のある演奏家の支援基金とする。)
- ・ 備考： 詳しくは10月1日付の市報に掲載されました。

(問合せ先：東久留米市南部地域センター 042-451-2021)



【主宰者より】 第1回、第2回コンサートでは多くの来場者の皆様楽しんでいただきました。

今回も沢山の世界の名曲を演奏して、皆さんに喜んでもらえるよう張り切っております。

会員の皆様でチケットをご希望の方は下記にご連絡ください。ご招待させていただきます。

(但し、枚数に制限あり) ・ メール：lisachanphoto@gmail.com

・ 携帯：090-4719-3672

高野 正人 記

<コントラクトブリッジ活動報告とお誘い>

6月にキックオフをし、9月は悪天候により中止となったが10月までに4回の開催をした。現在のメンバーは初心者が河村さん、山岡さん、三浦さん、坂井さんの4人、経験者が松崎さん、東海さん、金子の3人です。活動内容は初心者用のテキストで勉強しているが初心者用とは言え、ブリッジそのものがわからない初心者には難しい。「ブリッジとは」の説明と「ブリッジのプレイの基本」をテキストで繰り返し勉強し、実際にカードを配ってのプレイとその説明をしている。最低で8人~10人のメンバーを集めたいと思います。活動後は有志により駅近辺の居酒屋で反省会もあります。初心者も経験者も気軽に活動をのぞいてみてください。

ブリッジは知的スポーツとして今年、中国で開催のアジア大会でも種目になり日本代表が参加しました。結果は男子団体が初めて銅メダルをとりました。中国、韓国、香港が上位でした。

基本の活動日程、場所は下記になります。

活動日時：第3金曜日、15:50~18:50

場所：東久留米生涯学習センター、集会学習室

○連絡先：金子孝司 携帯電話：090-2626-3506、 e-mail：cgm.knk@gmail.com



金子 孝司 記

<秋の懇親会 特別会計 収支報告>

10月15日開催の「秋の懇親会」の収支報告は以下のとおりでしたので報告します。

〔収入〕 懇親会費…111,000円 (会員37名×3,000円)

〔支出〕 講談講演謝礼…10,000円 飲食費 111,000円

会場、備品費、他…7,930円

〔収支〕 17,930円の不足…本会計「イベント補助金」から補填しました。

会計係 清水 正弘 記

<稲門祭記念品グッズ福引結果>

抽選の結果、以下の二名の方が当選されました。おめでとうございます！

稲門賞 E賞 (10万円分の旅行券) 片平 るみ 会員

職域賞 (色々な品物の詰め合わせ) 平山 正徑 会員



<東稲ニュースの原稿募集しています！！>

東稲ニュース編集委員会では、皆さまからの原稿を募集しております。

今回は、皆さまからの修学旅行の思い出を募りたいと思っておりますが、勿論どんなテーマでも大歓迎です。お書きくださる方は、編集委員にご一報ください。心からお待ちしております。



<会員リレーエッセイ> ~噴水広場~

S53 商学部卒 平山 努

謡曲と私——早稲田以来の趣味

(1) 長続きしている謡曲という稽古事

私は生来、飽きっぽい性格で何ごとにも長続きしないのですが、例外的に40年以上続けたことが、二つあります。一つは、会社勤務です。二つの会社(日本郵船とその子会社の海洋興業)に計41年3か月間働き、4年前になんとか無事に責任を果たし退職しました。もう一つは、観世流の謡曲(ようきょく)の稽古です。これは良き師にめぐまれ、今から46年前の早稲田在学中に開始して、今も継続中です。

(2) 謡曲とは

謡(うたい)とも言います。室町時代に成立し、今に伝わる伝統芸能である「能」の歌唱の部分です。謡曲は、能を構成する他の三つの要素(扮装・所作・囃子(はやし、楽器演奏))を伴いません。その手軽さと知的な魅力から、江戸時代には庶民階級にまで広く普及し、現在に至っています。

(3) 早稲田在学中に謡曲を習いはじめた経緯

私の次兄の舅にあたる方が、野村万作師(和泉流狂言方)の素人弟子でした。この縁から私は、野村万作師経由の紹介で、野村万作師の弟の野村四郎先生(観世流シテ方)に入門しました。私が商学部4年生だった1977年4月(21歳)のことで、この時、野村四郎先生は40歳でした。

(野村四郎先生は、2021年4月に観世宗家より「雪号」を授与され、野村幻雪(げんせつ)と名乗られました。以下では、四郎先生とお呼びします。)

こうしてはじまった四郎先生との師弟関係は、四郎先生が2021年8月に急逝される迄の44年間にわたりました。(四郎先生の急逝後は、ご子息の野村昌司先生に引続き師事しています。)

(4) 野村四郎先生について

四郎先生への入門は偶然でしたが、生涯の幸運でした。歌人の馬場あき子は、西洋の芸術論と日本の芸術論の違いを論じて、「(日本の芸術論では)芸事の優れている人は人格も優れている。……<中略>……その人間の質の高さが芸を決定する。」(『寂しさが歌の源だから』角川書店)と書いていますが、この記述は、四郎先生について当てはまると思います。

四郎先生は、2016年に観世流シテ方として人間国宝(重要無形文化財各個認定)の認定を受けられました。数々の受賞、東京芸術大学教授・名誉教授、日本能楽会会長など、能楽界の重鎮になりましたが、私を含む素人弟子にも常に厳しさでご温顔をもって丁寧に指導して下さいました。

また、四郎先生は、「狂言の家に生まれた能役者」(ご著書の書名)でした。父君(六世野村万蔵師)と二人の兄君(野村萬師、野村万作師)の三師(いずれも和泉流狂言方)も人間国宝の認定を受けています。



(5) 会社員生活の中での稽古

幸いなことに41年余の会社員生活では、仕事を病気で長く休むことはありませんでしたが、これは、四郎先生からの謡曲の稽古によって、日々の労働のストレスをさっぱりと洗い流して来たがゆえ、と思っています。仕事は忙しく、当然に謡曲よりも仕事を優先せざるを得ないので、稽古をかなり休みましたが、どうかして稽古に伺えた日は、四郎先生と一对一の稽古に集中する時間を頂き、いつも稽古後には爽快感と充実感に満ちて、直面するストレスから生き返るような心地がしたからです。

(6) 東久留米稲門会の会員の皆さんへのお願い



謡曲は、謡本(謡曲の楽譜を記した本、容易に入手できます)さえあれば、経験の有無や老若を問わず、誰でも楽しめます。皆さんのお近くに謡曲にご関心を持つ方が、おいでであれば、いつでもご相談に応じますので、どうぞご遠慮なく、平山努(携帯080-8493-1659)迄ご連絡をお願い致します。

編集後記

私は1972年4月に第一文学部に入学した。その年の11月に第一文学部2年の川口大三郎君が革マル派に文学部構内で撲殺された。中核派の活動家であると誤認されてのことだった。それからの学内は荒れた。何度も開かれる学生集会。授業中の教室に乱入してくる革マル派。鉄パイプで殴られ血だらけになった級友。ロックアウト。後期試験は全てレポート。当時全くのノンポリであった私だけ、革マル派の資金源と言われていた早稲田祭には一度も訪れなかった。今回稲門祭に参加し、タテカンもチラシもアジもない平和なキャンパスを心から楽しんだ。編集委員：片平るみ(今回の担当)・有賀千歳



東久留米稲門会ホームページにアクセスできます。
東稲ニュースがカラーでご覧いただけます。

